



- この説明書は、必ず取付けされる方にお渡しください。
- 本製品の薄壁用は壁厚(117~138mm)、厚壁用は壁厚(137~175mm)、204用は壁厚(113~117mm)、3枚建・片引戸2枚建は壁厚(147~191mm)、片引戸3枚建は壁厚(172~216mm)まで取付けられます。

■取付けされる方へのお願い

- 本説明書で使われているマークには、以下のような意味があります。

▲注意 …取付けを誤った場合に、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険又は物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

▲注意

- 本体と鴨居へのかかりを5mm以上確保してください。かかりが少ない場合は、5ページの建付け調整を必ず行ってください。本体が枠から外れてケガをする原因になります。

■取付け上のお願い

- 枠取付けの際は、水準器・下げ振りなどで水平・垂直を確認してください。
- 造作材・建具枠を取付ける時は、必ず接着剤(現場手配)を併用してください。
- かい木を使用する場合は、かい木の両面に接着剤(現場手配)を塗布してください。
- 現場で使う接着剤は、「F☆☆☆☆」又はノンホルムタイプを使用してください。
- 本製品のねじ締付け時には、クラッチ付きドライバーを使用してください。締付けトルクが強すぎると、ねじが空転したり、ねじの頭がとんだり、つぶれたりする場合があります。
- 本製品の組立て・施工時には、同梱の指定ねじを使用してください。他のねじを使用すると、部品・部材の脱落や、枠の垂下がり・ゆがみなどの原因となります。(本説明書内で「現場手配」と記されている場合は除きます。)
- 造作材・建具枠の下地材には、必ず乾燥材(含水率20%以下)を使用し、湿潤材は使用しないでください。
- 壁内の通気が悪く、内部結露が発生するおそれがある場合は、防水処理をしてから施工してください。
- 枠の組立て後、ねじれ・引張りなど無理な力を加えないでください。破損する原因になります。
- 枠の取付け時には、ゆがみ・ねじれなどのないよう(特に中縦枠)注意してください。
- 造作材・建具枠と柱・間柱・まぐさとの間には必ずすき間をつくり、かい木を入れてください。
- かい木には、合板などの乾燥材を使用し、湿潤材は使用しないでください。
- 造作材・建具枠をコンクリートやモルタル(床面)に直付けしないでください。やむを得ず直付けする場合は、造作材・建具枠木口と床面の間に、必ず防水処理をしてください。
- 本体は落下させたり、立てかけるときに衝撃を与えないでください。戸車部の樹脂部品がキズ付き、開閉に支障をきたす原因になります。
- 片引き・引分けの建具引込み部の半壁は、枠を開口部に取付けてから施工してください。
- 各部材のガイド穴にゴミなどが入らないようにしてください。
- 組立てねじは、縦枠とねじ頭が面一になるまで締め込んでください。但し、叩き込まないようにして下さい。保持力低下などの原因となります。
- 鴨居取付けねじの締めすぎにご注意ください。上レールを変形させると本体の動きが悪くなる場合があります。本体吊込み時に動きが悪い場合は、ねじをゆるめてください。
- 床材と薄敷居のすき間は5mm以内にしてください。ただし、キャスターや車いすなどの荷重がかかる場合は、すき間をあけないでください。
- ツバ材の取付けは、ハンマーなどでたたき込まないでください。
- ブレーキ力調整ねじを弱方向に回す場合は、ブレーキの表面よりねじ頭を15mm以上出さないように調整してください。
- 現地張りタイプの場合、和室側をクロス張りにしないでください。ソリが生じます。
- 運搬・加工の際は、キズ付けないように取扱ってください。又、水・直射日光の当たる場所に、開梱状態で置かないでください。ソリ・ねじれの原因になります。
- 納品時に各部材・部品を検品してください。万一製品に不具合があった場合は、必ず施工前にお買求め店までご連絡ください。(施工後の色調・不具合・キズなどによる交換はできません。)

■本体保管上のお願い

- 本体のソリ・ねじれ防止のため、下記場所に置いたり、保管しないでください。
 - ・直射日光の当たる場所
 - ・昼夜などで温度差の激しい場所
 - ・湿気の多い場所
 - 本体を長期間保管する場合は、寝かせた状態で保管してください。立て置きでの保管はソリ・ねじれなどの原因になります。
- ※建築工事中は、本体を養生・保全のため取外しておき、施工完了後に吊込むことをおすすめします。

■部品・部材の明細

※枠はノックダウン、本体は完成品

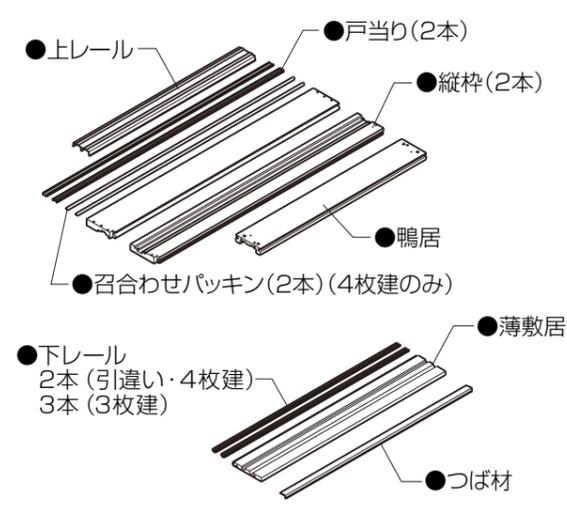
引違い・3・4枚建用本体



1枚梱包×2：引違い用
1枚梱包×3：3枚建用
1枚梱包×4：4枚建用

※4枚建に使用する召合せパッキンは、枠に同梱されています。

引違い・3・4枚建用枠



- 上レール
- 戸当り(2本)
- 縦枠(2本)
- 鴨居
- 召合せパッキン(2本)(4枚建のみ)
- 下レール
2本(引違い・4枚建)
3本(3枚建)
- 薄敷居
- つば材

引違い・3・4枚建用ケーシングセット

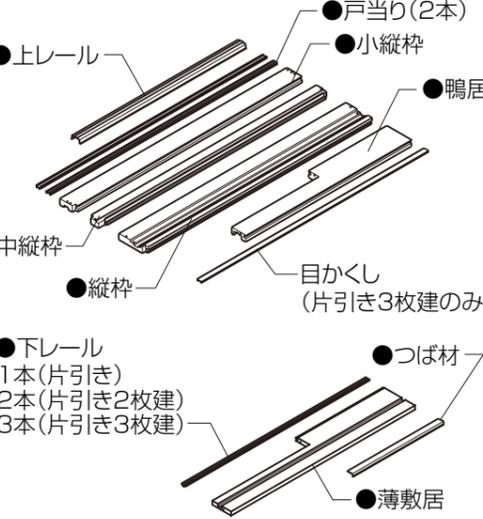


片引き用本体



1枚梱包×1：片引き用
1枚梱包×2：片引き2枚建用
1枚梱包×3：片引き3枚建用

片引き用枠



- 上レール
- 戸当り(2本)
- 小縦枠
- 鴨居
- 中縦枠
- 縦枠
- 目かかし(片引き3枚建のみ)
- 下レール
1本(片引き)
2本(片引き2枚建)
3本(片引き3枚建)
- つば材
- 薄敷居

片引き用ケーシングセット



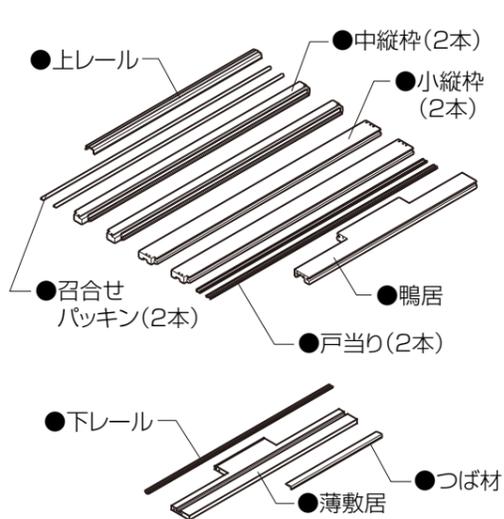
引分け用本体



1枚梱包×2

※引分けに使用する召合せパッキンは、枠に同梱されています。

引分け用枠



- 上レール
- 中縦枠(2本)
- 小縦枠(2本)
- 鴨居
- 召合せパッキン(2本)
- 戸当り(2本)
- 下レール
- 薄敷居
- つば材

■部品セット

〔片引き・引違い用〕

組立て用皿小ねじM4×50	9本
鴨居取付け用トラスタッピンねじφ4×50	5本
縦枠取付け用DNビス(皿木ねじ)φ3.8×50	6本

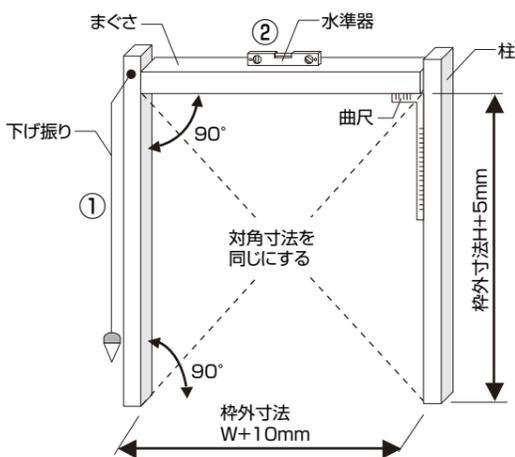
〔3枚建・片引き2枚建用〕

組立て用皿小ねじM4×50	9本
鴨居取付け用トラスタッピンねじφ4×50	7本
縦枠取付け用DNビス(皿木ねじ)φ3.8×50	6本

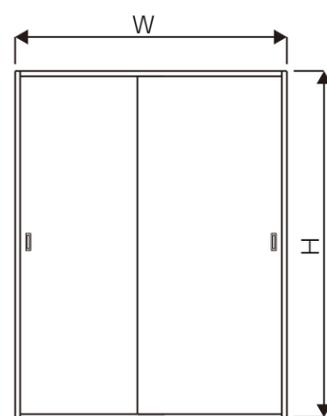
〔引分け・4枚建・片引き3枚建用〕

組立て用皿小ねじM4×50	10本
鴨居取付け用トラスタッピンねじφ4×50	9本
縦枠取付け用DNビス(皿木ねじ)φ3.8×50	6本

■開口部の作り方

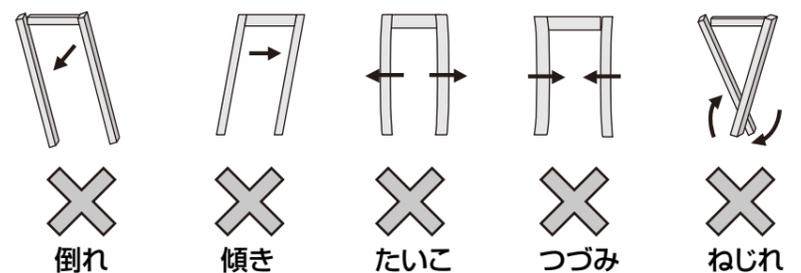


●製品寸法



- ①下げ振りを使って、柱が垂直になるように取付けてください。
- ②水準器・曲尺を使って、まぐさが柱と垂直で、水平になるように取付けてください。

※柱、床、まぐさの水平・垂直がでていないと、枠が下図のようになり、不具合現象につながります。

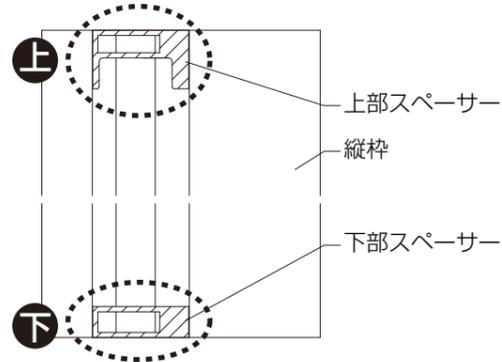


■取付け順序

1 枠の組立て

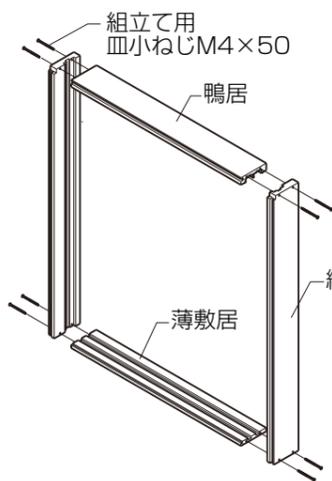
- 右図のように、各部材を組合わせ、同梱のねじ(皿小ねじM4×50)で固定します。

縦枠には上下があります。大きなスペーサーが付いている方が上側です。組み合わせる向きにご注意ください。

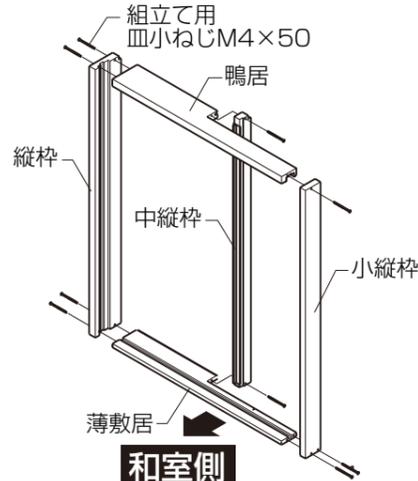


※図は片引戸の場合を示します。

●引違い枠



●片引き枠



〔薄敷居〕 ●片引き

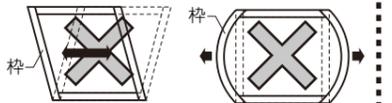


●引違い



枠組立て上のごお願い

- ※組立てねじは、縦枠とねじ頭が面一になるまで締込んでください。
- ※ガイド穴にゴミなどが入らないようにしてください。
- ※ねじは、たたき込まないようにしてください。保持力低下などの原因となります。
- ※枠組立て後、揺らす・引張るなどの無理な力を加えないでください。破損の原因になります。



2 枠の取付け

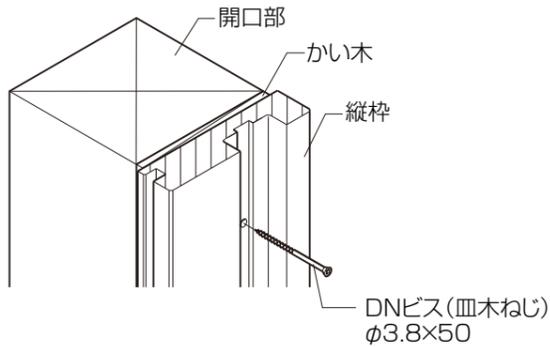
- ①開口部と、縦枠(中縦枠・小縦枠)・上枠との間にかい木を入れて取付けます。

●鴨居

- ※鴨居はトラスタッピンねじφ4×50で固定してください。

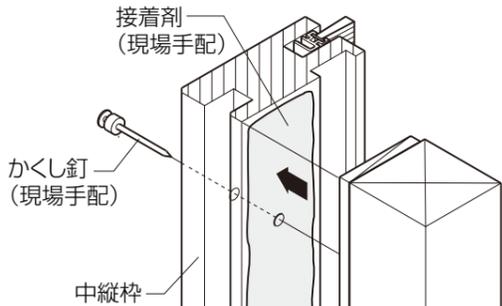
●縦枠・小縦枠

- ※DNビス(皿木ねじ)φ3.8×50で固定してください。



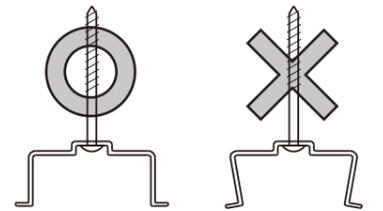
●中縦枠

- ※裏面に接着剤(現場手配)を塗布し、かくし釘(現場手配)で固定します。

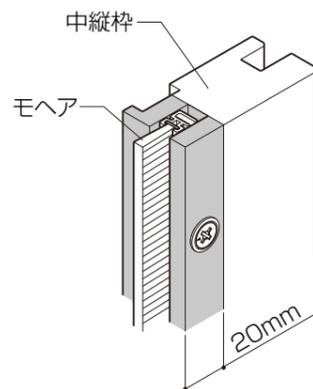


枠取付け上のごお願い

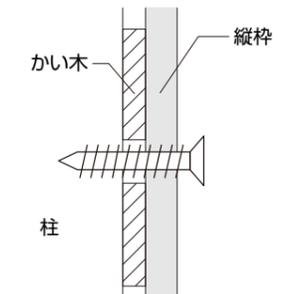
- ※片引き・引分けの建具引込み部の半壁は、枠を開口部に取付けてから施工してください。
- ※鴨居取付けねじの締めすぎにご注意ください。上レールを変形させると本体の動きが悪くなる場合があります。本体吊込み時に動きが悪い場合は、ねじをゆるめてください。



中縦枠を固定する際、釘やタッカーをモヘア側から表裏20mmの斜線部には打たないでください。中縦枠にはモヘアを調整する機能が付いているため、部品が破損し調整出来なくなります。



上下・左右のすき間をかい木で調整し、水準器・下げ振りをを使って枠に倒れ・傾き・ねじれがないことを確認した後、ねじを本固定してください。※枠に水糸を張る等して枠が曲がっていないことを必ず確認してください。

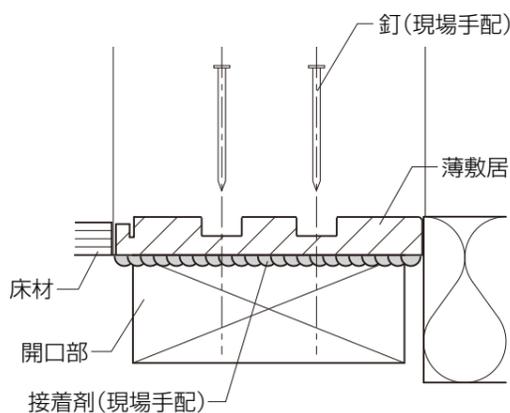


かい木は100mm以上を使用して木工用ボンドで接着してください。

- ②薄敷居を開口部に取付けます。

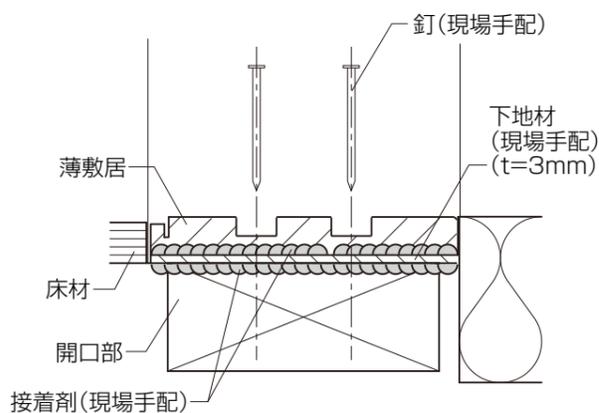
●床材厚さ12mm

- ※必ず薄敷居に接着剤(現場手配)を付け、躯体に固定してください。
- ※釘は端部より100mm離し、450mmピッチで接着剤(現場手配)と併用して取付けてください。

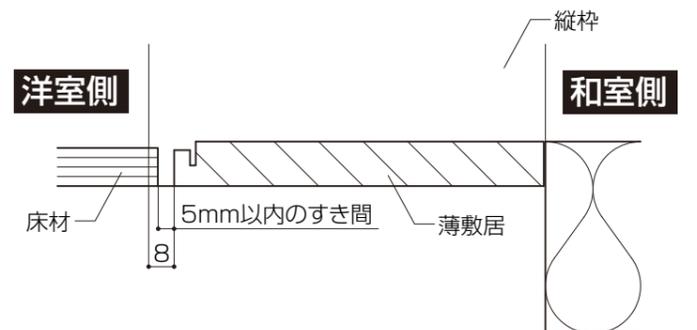


●床材厚さ15mm

- ※必ず薄敷居と下地材に接着剤(現場手配)を付け、躯体に固定してください。



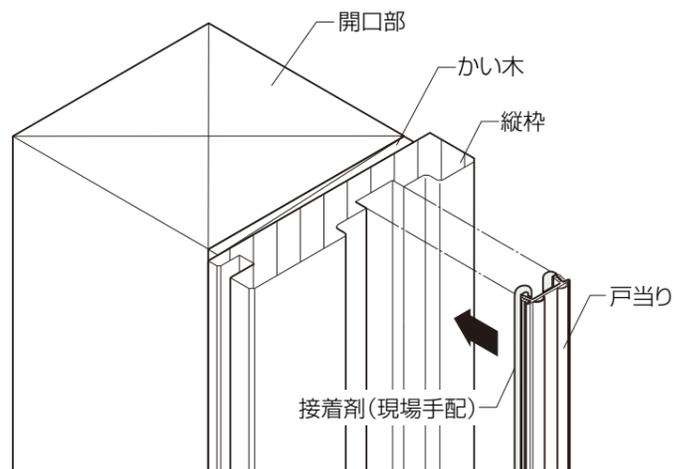
- ③枠取付け後、下図のように床材を張ってください。



お願い

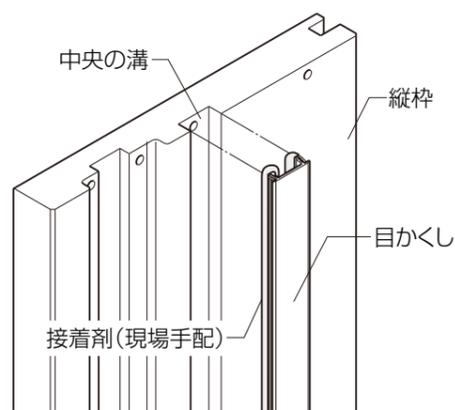
- 床材と薄敷居のすき間は5mm以内にご確認ください。ただし、キャスターや車いすなどの荷重がかかる場合は、すき間をあけないでください。

④戸当りを接着剤(現場手配)で取付け、溝をふさぎます。



⑤縦枠中央の溝に目かくしを戸当りと同様に接着剤(現場手配)で取付けます。

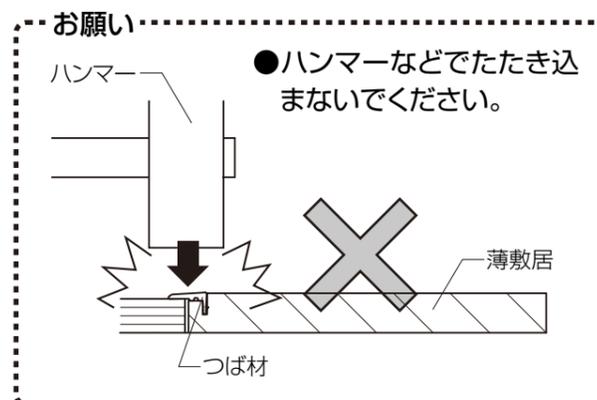
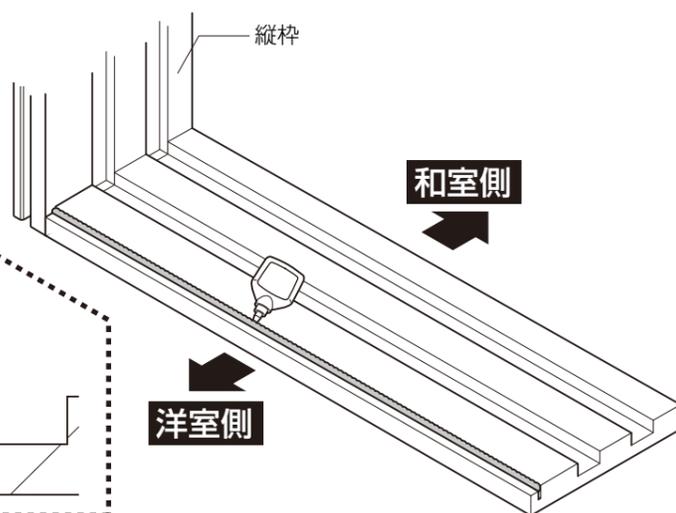
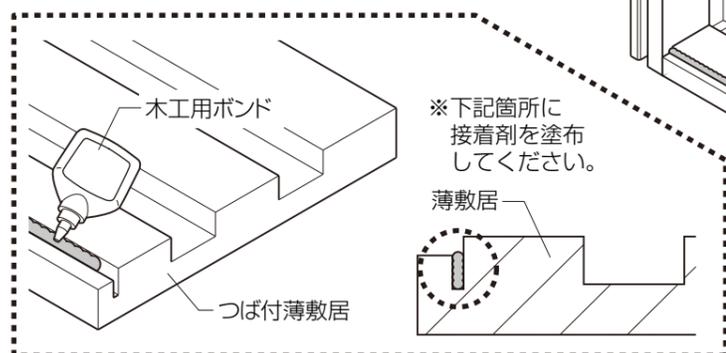
※片引き3枚建のみ



3 つば材の取付け(つば付薄敷居を使用する場合のみ)

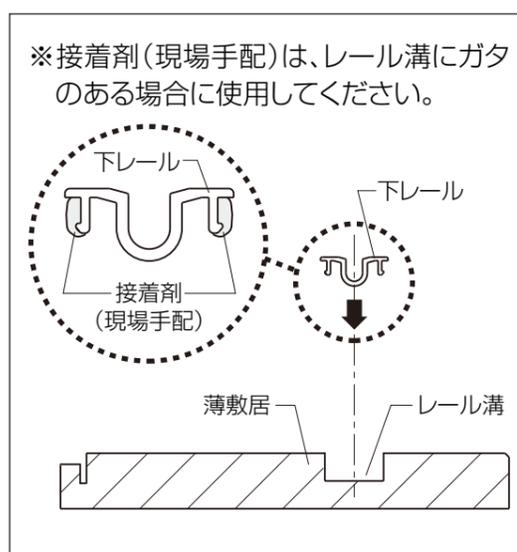
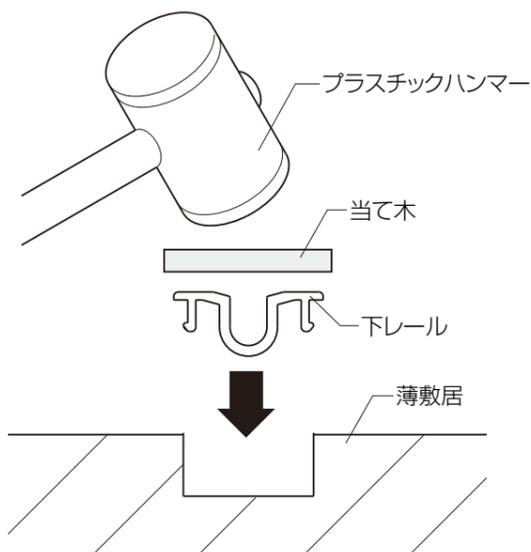
①現場でつば材の寸法を開口に合わせて切断してください。

②薄敷居の溝に木工用ボンド(現場手配)を溝全長に隙間無く塗布してください。



4 下レールの取付け

●敷居の溝にプラスチックハンマーなどでたたき込んで固定します。



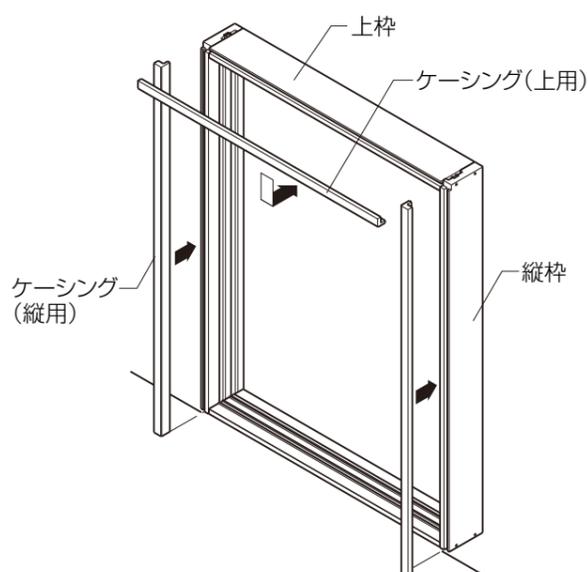
5 ケーシングの取付け

※壁材・床材を仕上げからケーシングを取付けてください。

①別梱のケーシングを現場寸法に合わせて切断します。(上用ケーシングは、枠に合わせてあらかじめカットしてあります。)

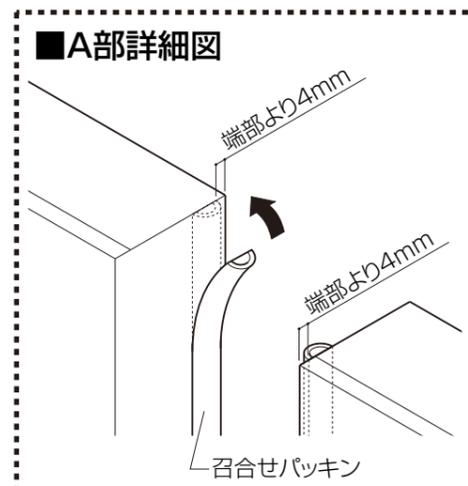
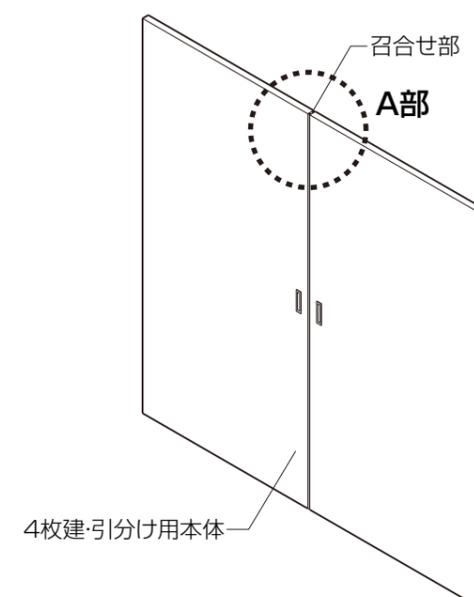
②枠のケーシング溝へケーシングを差込みます。

③ケーシング溝とケーシング裏面に接着剤(現場手配)を塗布し、ケーシングを固定します。



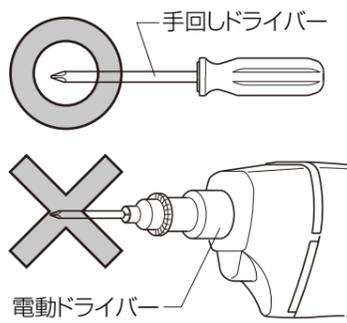
■ 召合せパッキンの取付け(4枚建・引分けのみ)

※4枚建・引分け用本体の召合せ部に、枠に同梱の召合せパッキンを取付けます。召合せパッキン裏面のシートをはがし、5kg程度の力で手で押して張付けてください。(召合せパッキンは枠のダンボールに入っています。)



■建付け調整

- ※建付け調整は必ず、手回しドライバーを使用してください。
- ※電動ドライバーは、使用しないでください。ねじ頭が壊れるおそれがあります。



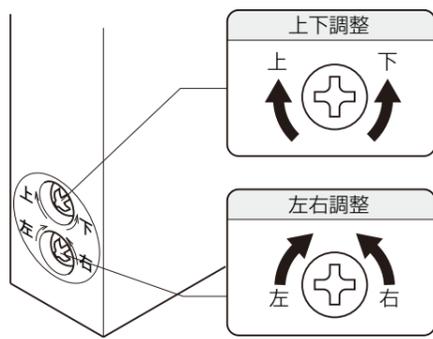
〔上下調整(調整幅+4mm、-2mm)〕

※鴨居に5mm以上かかるよう調整してください。

- ①本体両下端の上下調整ねじを右に回すと本体が上がり、左に回すと本体が下がります。
- ②調整後、本体の鴨居へのかかりが5mm以上あるか確認してください。

〔左右調整(調整幅±2mm)〕

本体両下端の左右調整ねじを左に回すと本体が右に動き、右に回すと左に動きます。

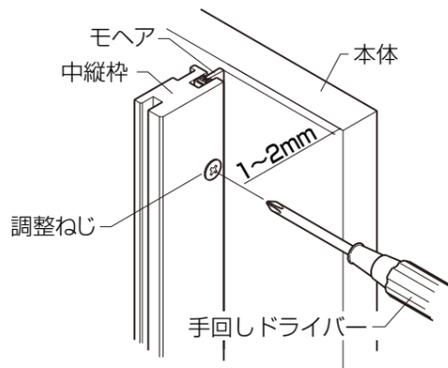


▲注意

- 本体と鴨居へのかかりを5mm以上確保してください。かかりが少ない場合は、本ページの建付け調整を必ず行ってください。本体が枠から外れてケガをする原因になります。

〔中縦枠の調整(調整代+6mm)〕

●中縦枠のモヘアの出寸法を調整する



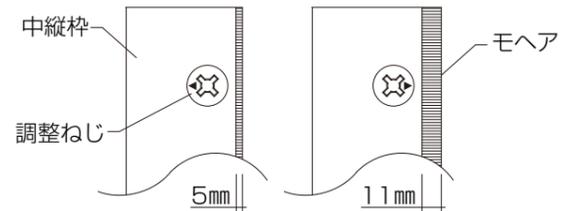
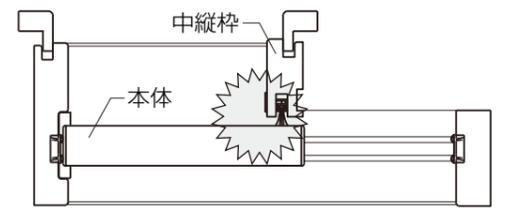
※本体とモヘアのすき間が1~2mm程度になるように調整してください。

出荷時には輸送時のモヘアの折れ曲がりを防ぐためモヘアを最も引っ込めた状態で出荷しています。

- ①中縦枠のモヘア調整ねじを手回しドライバーで回してモヘアの出寸法を調整してください。
- ②調整後、本体とモヘアの先端が1~2mmのすき間が確保されているか確認してください。調整ねじの▲マークがモヘア側に向いている時がモヘアが最も出ている状態で、逆に向いている時が最も引っ込んでいる状態です。

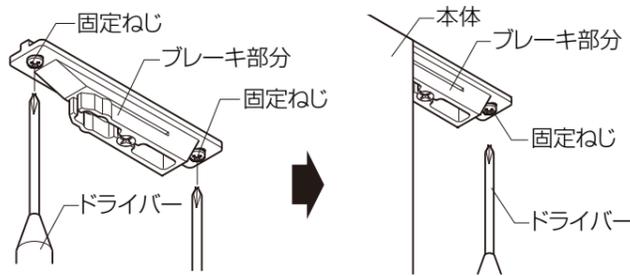
※本体と中縦枠モヘアが接触しすぎると、開閉が重くなります。

●片引き・引分け



〔ブレーキの左右調整〕

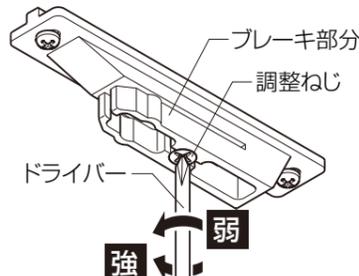
本体の左右調整時、ブレーキの左右調整も行ってください。上レール内側に付いているブレーキ部品の固定ねじをゆるめ、下図のように本体を途中まで閉じてください。このまま片側の固定ねじを締め、本体を開けて反対側の固定ねじも締めてください。



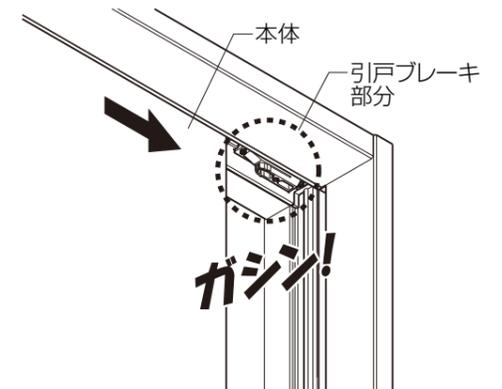
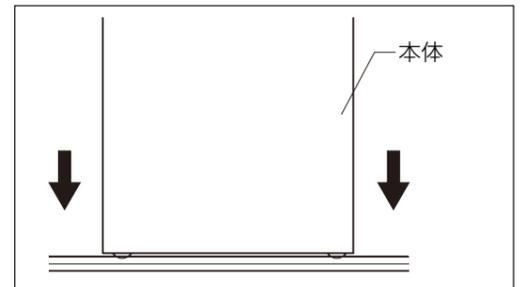
〔ブレーキ力調整〕

上レール内側に付いているブレーキ部品の調整ねじで、ブレーキ力を調整してください。

- ブレーキ力調整上のお願い
- 調整ねじを弱方向に回す場合は、ブレーキの表面よりねじ頭を1.5mm以上出さないように調整してください。



●本体がブレーキ部品にあたる時は、上下調整ねじを回して本体を下げてください。

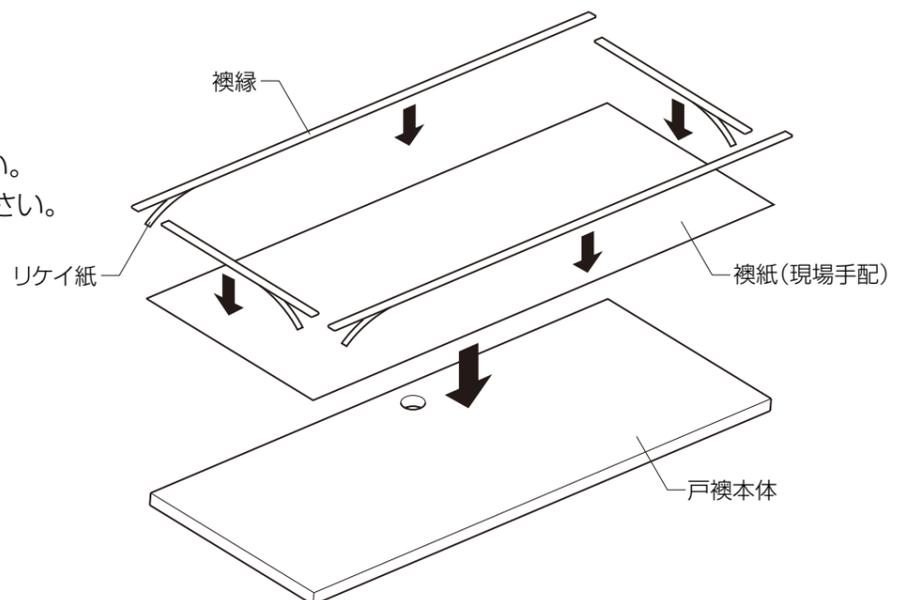


■戸襖の現地張り

- 生地タイプの戸襖の場合は、現地で襖紙を張ってください。
 - ①本体の生地面側(白色)に襖紙を澱粉糊(糊付き紙の場合は水)で張ります。
 - ②襖縁を、本体の寸法に合わせノコギリで切断します。
 - ③襖縁のリケイ紙をはがし、襖紙の上から圧着してください。
- ※襖縁の厚さは2種類あります。厚い方を縦に、薄い方を横に使用してください。
- ※現場手配した襖紙を張った場合は、次回の張替え時から上に張増ししてください。

お願い

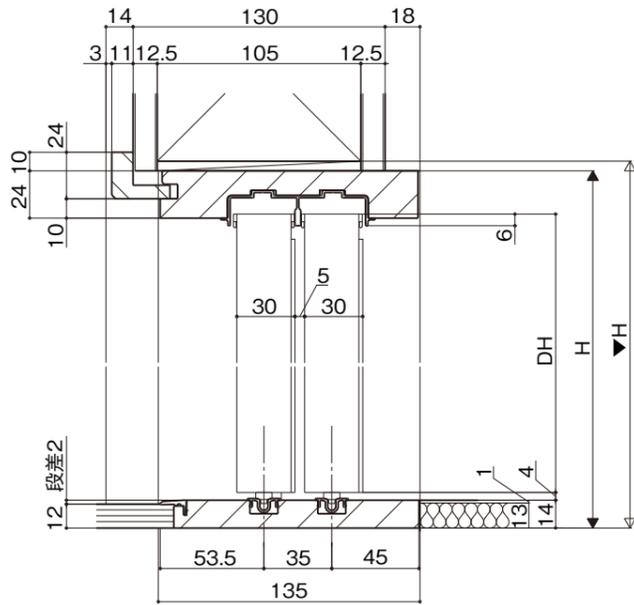
- クロス張りにしないでください。ソリが生じます。



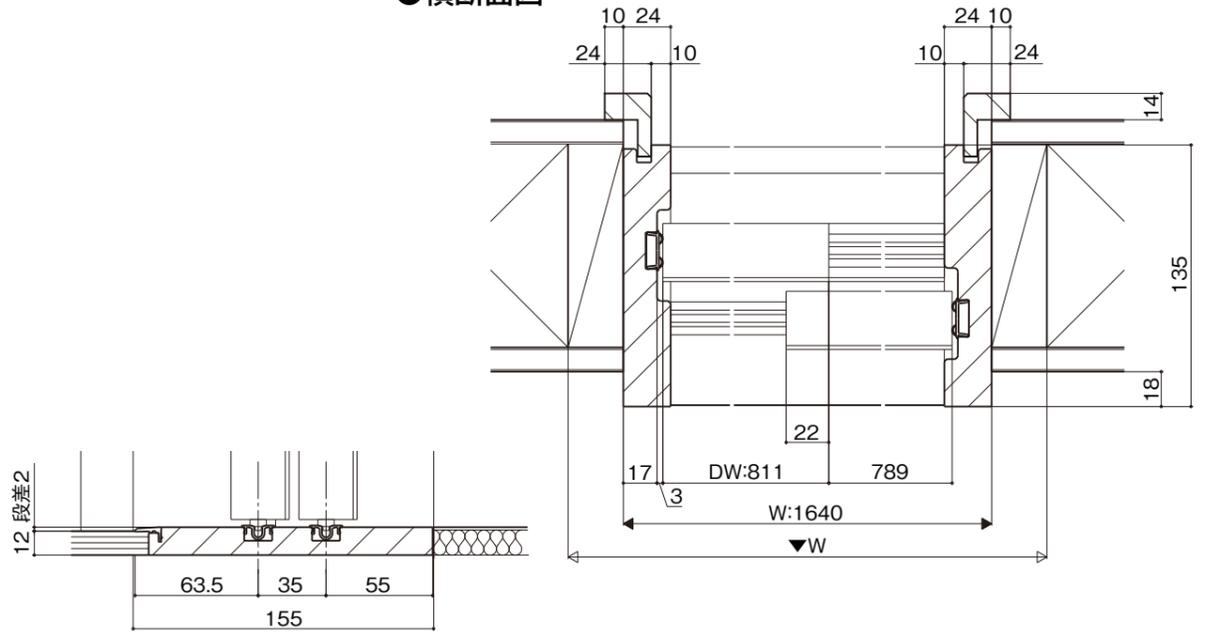
■納まり図

■引違い戸2枚建(薄壁用)

●縦断面図



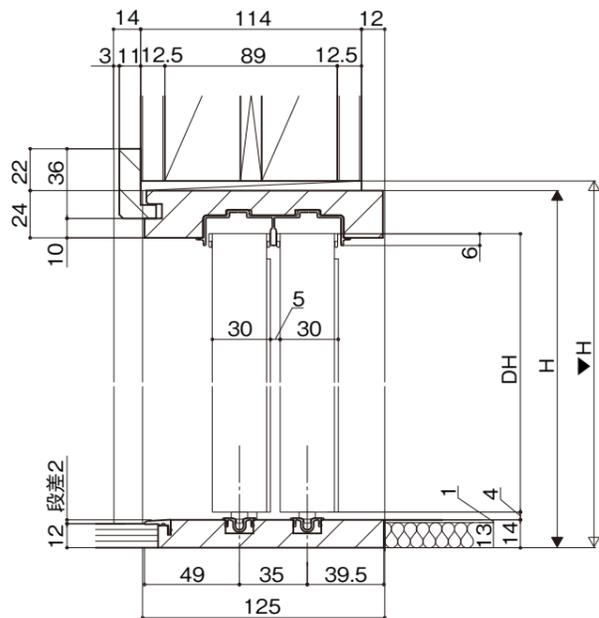
●横断面図



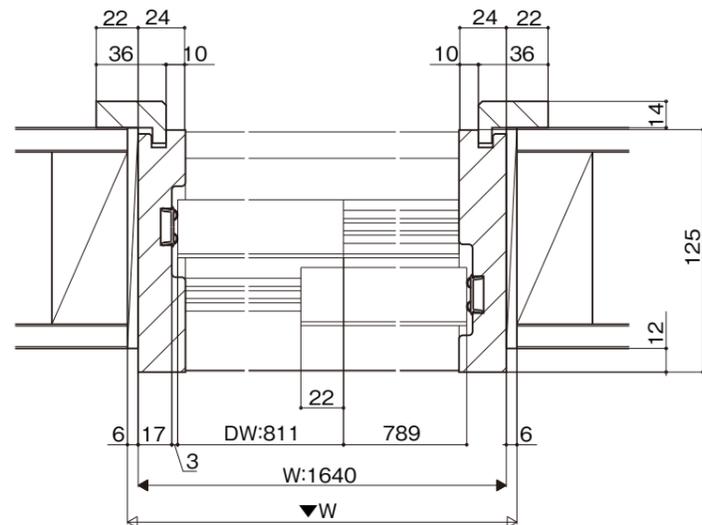
厚壁敷居納まり図

■引違い戸2枚建(2×4用)

●縦断面図

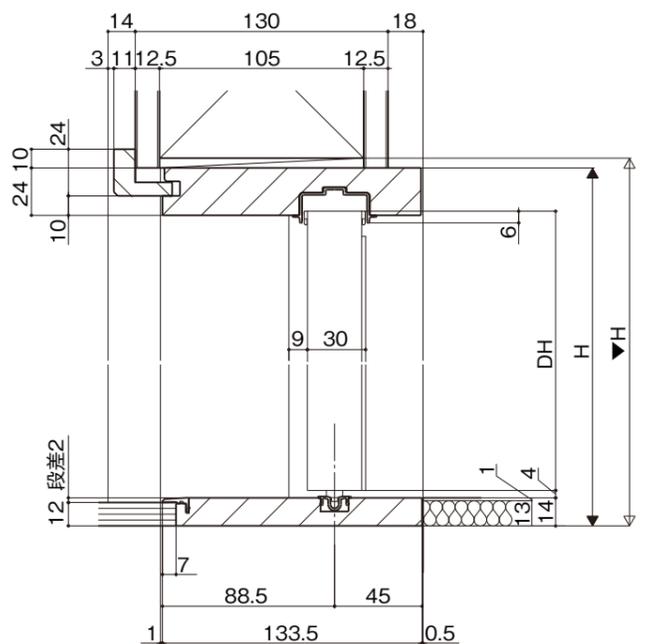


●横断面図

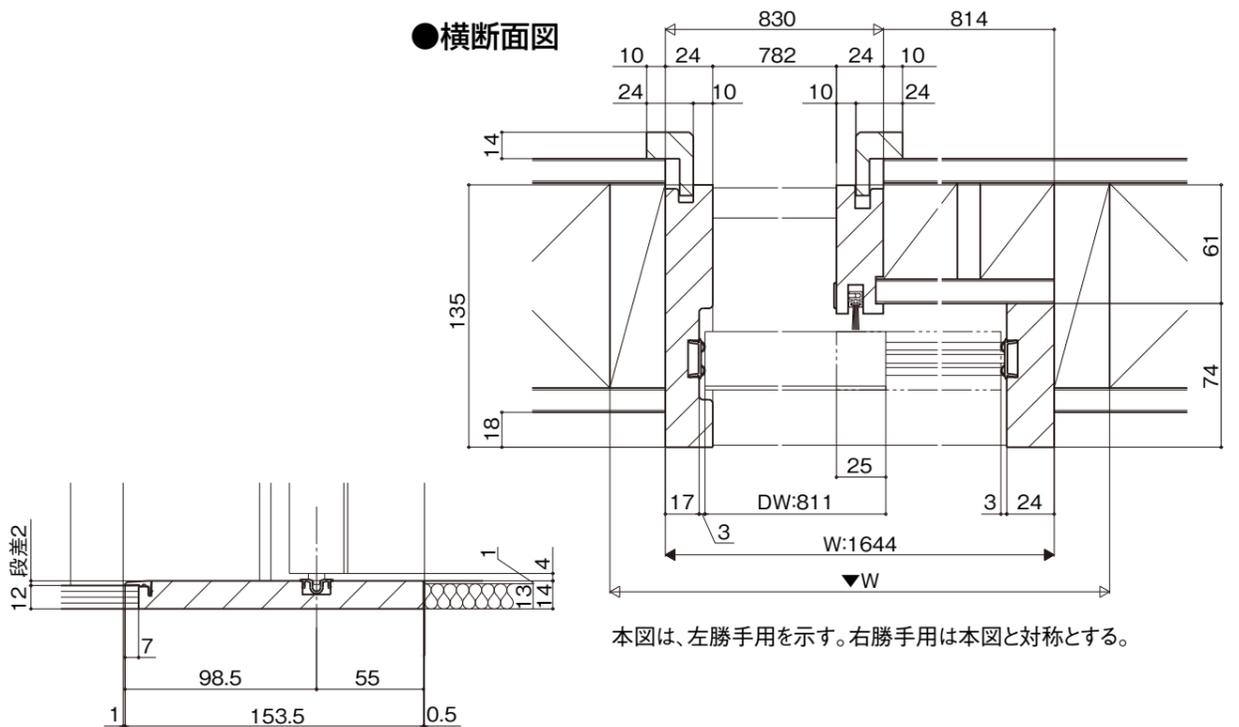


■片引戸(薄壁用)

●縦断面図



●横断面図

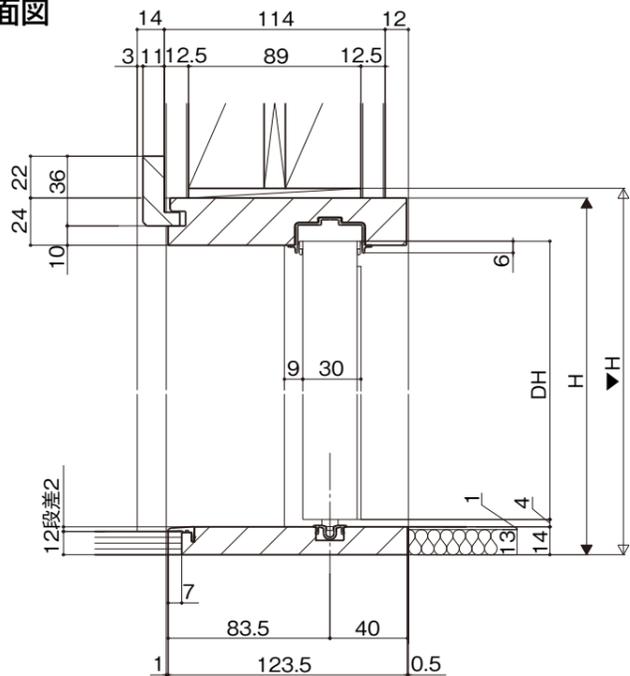


本図は、左勝手用を示す。右勝手用は本図と対称とする。

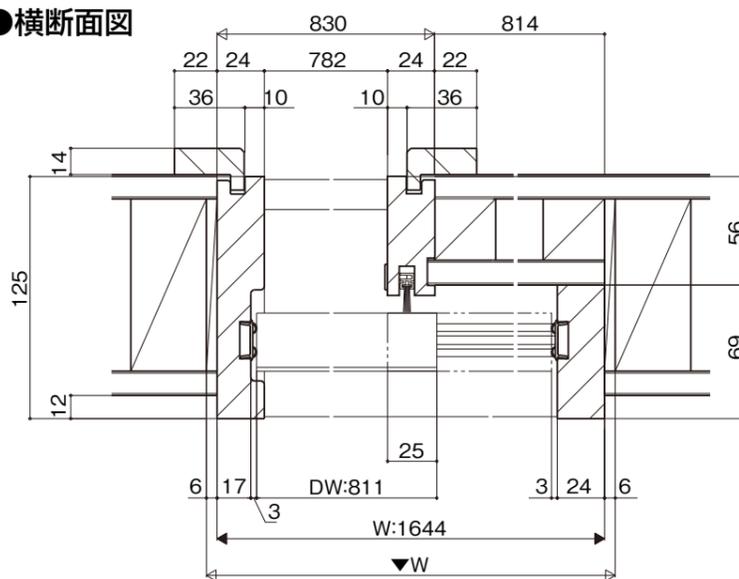
厚壁敷居納まり図

■片引戸(2×4用)

●縦断面図



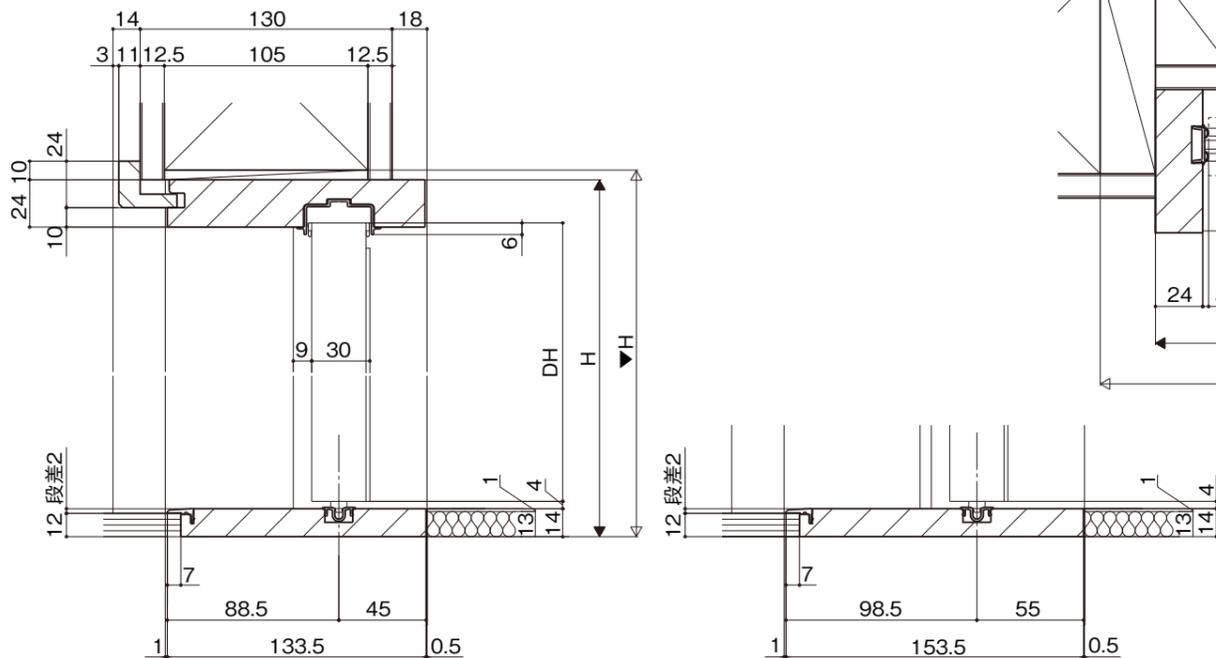
●横断面図



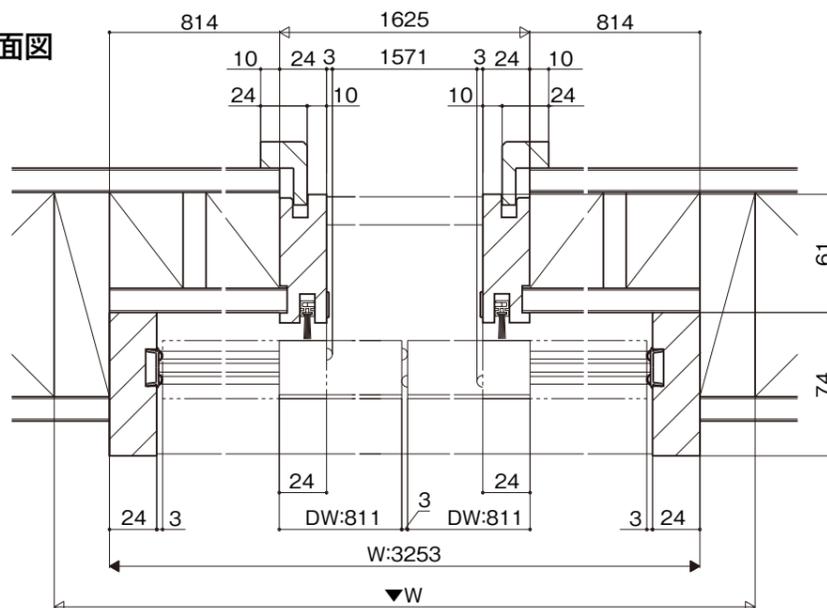
本図は、左勝手用を示す。右勝手用は本図と対称とする。

■引分け戸(薄壁用)

●縦断面図



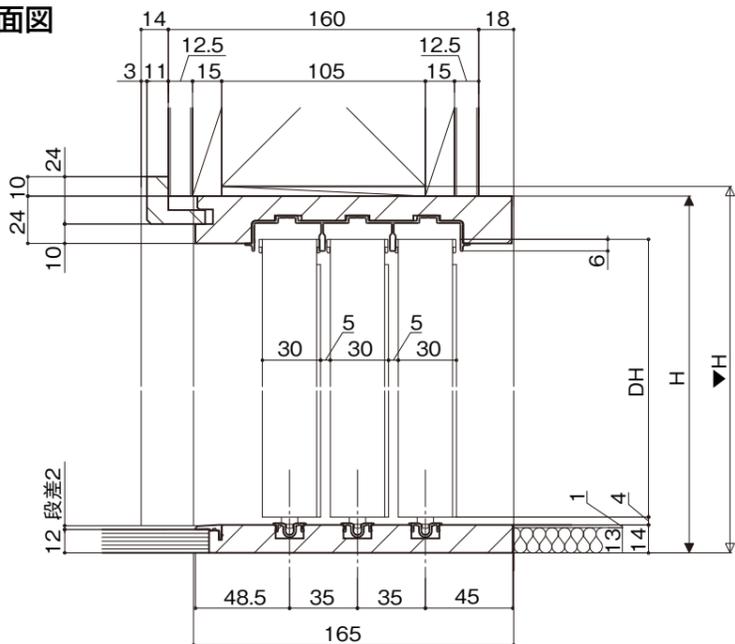
●横断面図



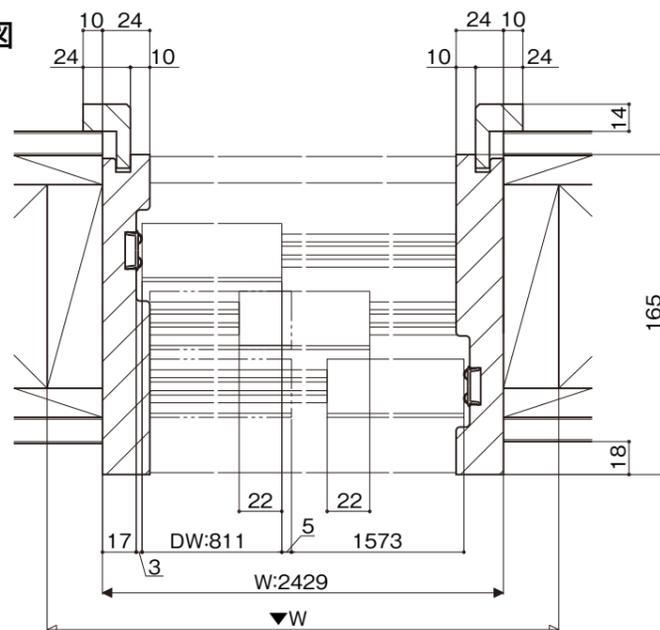
厚壁敷居納まり図

■引違い戸3枚建

●縦断面図

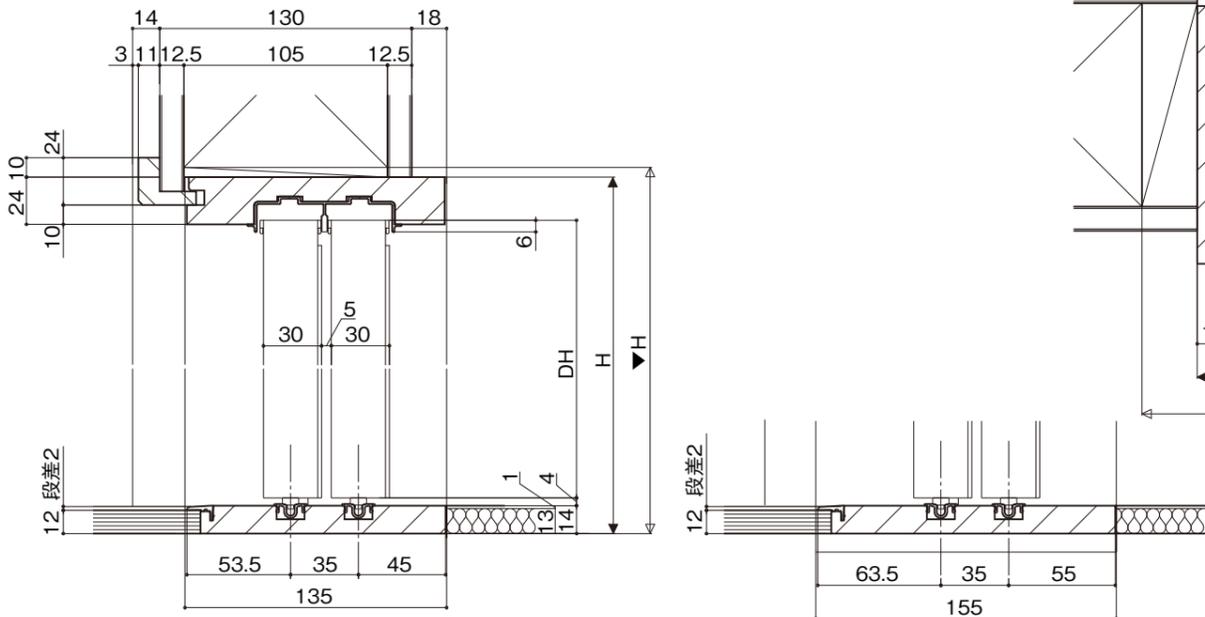


●横断面図

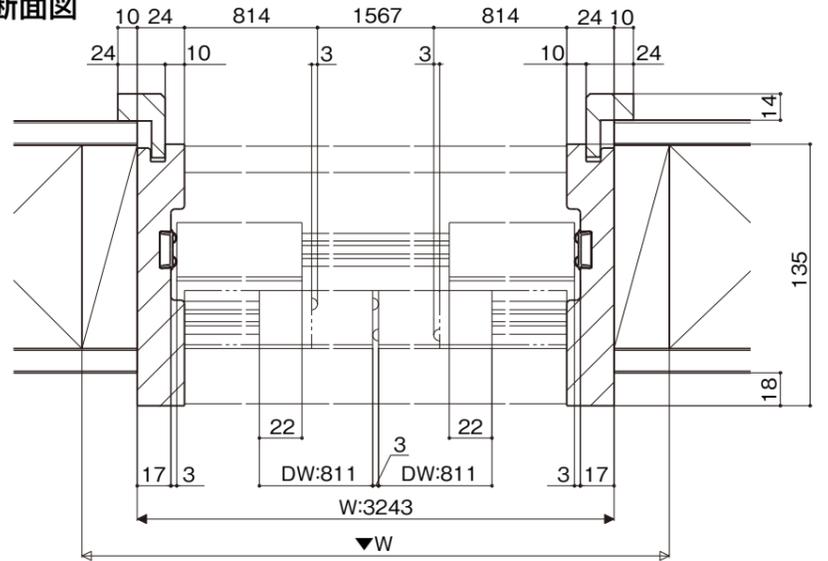


■引違い戸4枚建

●縦断面図



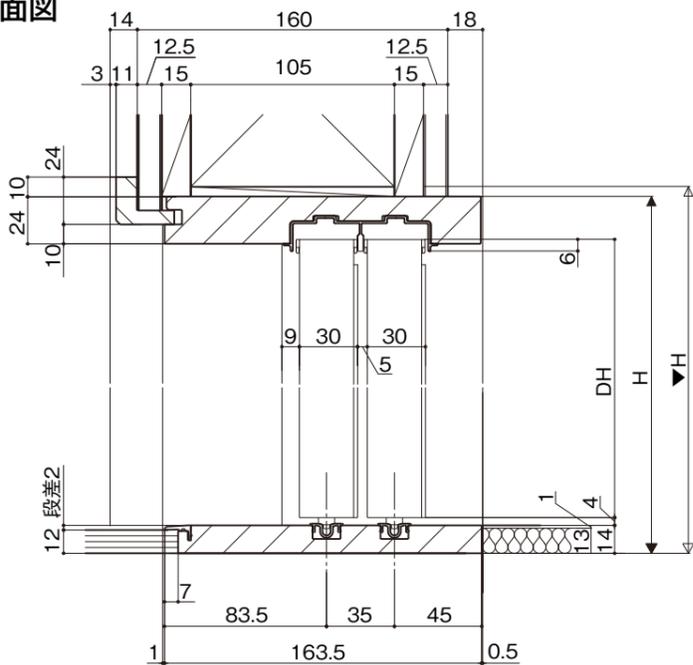
●横断面図



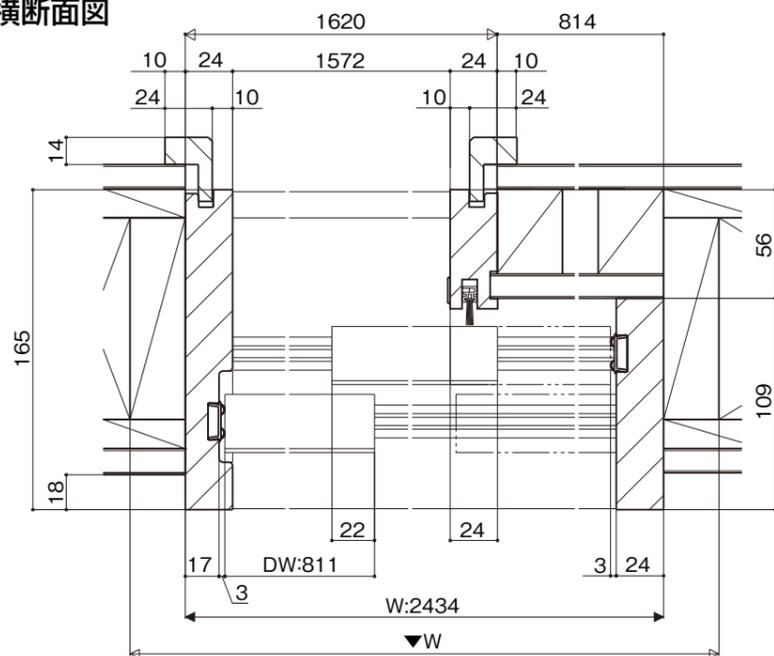
厚壁敷居納まり図

■片引戸2枚建

●縦断面図



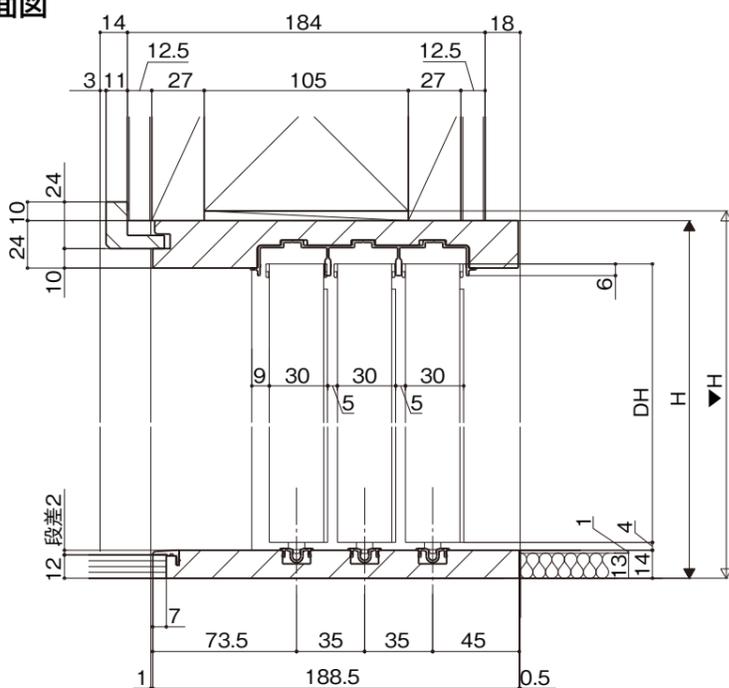
●横断面図



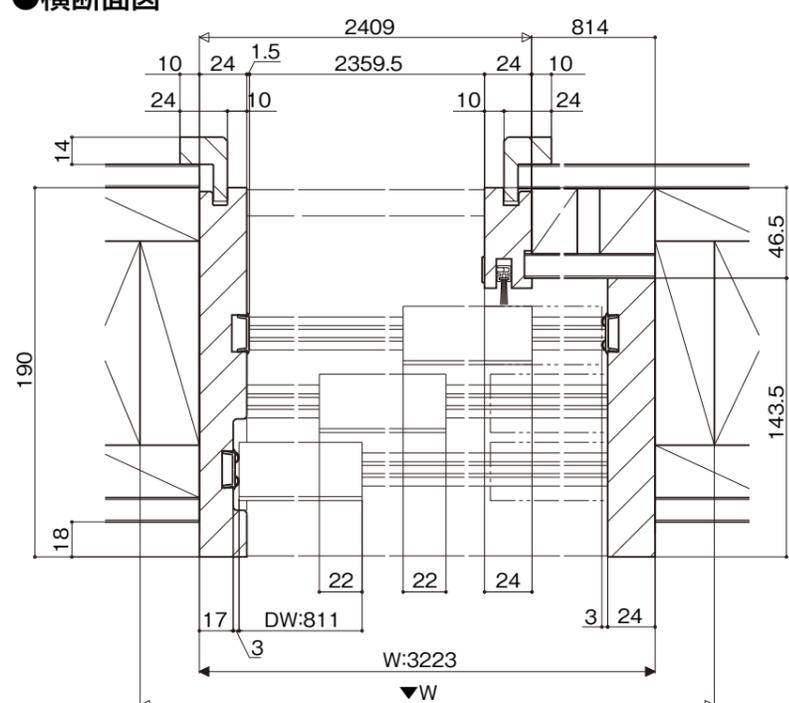
本図は、左勝手用を示す。右勝手用は本図と対称とする。

■片引戸3枚建

●縦断面図



●横断面図



本図は、左勝手用を示す。右勝手用は本図と対称とする。